

■(大正13年11月1日)

鈴木三千代宛

無事帰神の事と思ひます。

通夜の疲れや気疲れや定めし今頃はがっかりしてゐる事でせう。身体に多少変調を来してゐるらしい様子だったから何か後で障りはしませんでしたか。私はまだ大事をとつて寝てゐますが、相変わらず食欲もあり順調によくなりつつあります。案じる事無用。今まで日夜絶えず顔を合してゐてその人の事ばかり案じてゐた父上が居なくなつたので頭が余り軽くなり寧ろ退屈で困ります、然しまだ淋しいとか悲しいとかいふ心持は少しも湧きません。これはもつと後になつてからでせう。

さて別封で私の大島羽織袴と下着襦袢とを送りました。もし手すきならば一つ洗ひ張にやつて作りなほして下さい、消毒所から消毒がすんで来たばかりですから汚れてゐても絶対に安全です。下着は実はお父さんのですから寸法が合ひません。無理な仕事かも知れませんが何とか工風して下さい。襦袢の襟は色合が如何にも貧弱です、もつと黒っぽい色を買つてつけてくれませんか。今まで下着を着たりなどすると、羽織の袖が少し短かいやうで着物の方が出るやうでしたその辺も御一考下さい。為替券一枚封入しました洗張代などです。足りなかつたら遠慮なく知らせして下さい(中略)先日は大久保から滋養があるからとチーズを一箱貰ひました、滋養になるといふのでうまいのかまづいのか解らない奴を臭いのを我慢して毎日パンへつけて食べてゐます。

十一月一日夜

目黒 厚 一

三千代殿